

積極的な取組

通信・面会について	病棟によっては患者の状態に応じて携帯電話を病棟に持ち込むことができる。
	テレホンカードと硬貨（10円・100円）が使える電話が合計4台設置されていた。うち2台は開放・閉鎖ゾーンの各デイルームの隅に衝立で仕切られ、椅子が設置されていた。閉鎖ゾーンでは夜間はデイルームに入れないため、男・女各病室のエリアの廊下の壁に設けられている凹んだ空間にそれぞれ1台設置されていた。開放ゾーンには、病院の無料Wi-Fiの案内も掲示されていた。
療養環境について	A病棟の天井付近には、季節感のある装飾やOTで作られたカレンダーが飾られ明るい雰囲気だった。また柱の周りには、花の写真や漢字クイズ等が至る所に貼られていた。
	スマートフォンが使える、缶やビンを持ち込める病棟がある等、病棟毎の運営が柔軟で個別対応を行っている印象を受けた。
	OTプログラムが豊富で、患者がそれぞれの希望で選択できるようになっていた。
トイレに関すること	衛生面、清潔の保持のための工夫が見られた。例えば、A病棟のトイレや洗面はとても清潔に保たれていた。また、B病棟ではおむつやポータブルトイレを使用されているとのことだが、尿臭や便臭等は感じられなかったため、どのような工夫がなされているかを病院に尋ねると、「C等の業者を入れるとともに、全ての病棟でトイレキーパーを決めていて、こまめに（汚物を）捨てたりしている」との説明があった。
退院支援について	退院前訪問は医師・看護師・PSW・OT等がチームで行い、訪問することで今までどのように生活されていたかが把握でき、退院準備に向けたプログラムをOTで取り組むこともできるとのことだった。レビー小体型認知症の患者の場合は、錯視しやすいものはないか等もチェックし安全に退院できるように支援しているとのことだった。
意見箱について	意見箱の投書への回答の掲示がとても分かりやすく、意見箱が活用されている様子がわかった。また、公衆電話の側に「入院中の精神障害者の権利宣言」が掲示されていた。
職員研修について	病院全体として、感染症や虐待対応、身体的拘束等のリスク対応への意識が高い状況だった。
その他	コロナ前は地域の事業所の方が病棟内に入って患者と交流していたことや、初診のハードルをさげるために予約制はとらないようにしているというように、病院の外に目を向けた取組が複数聞かれた。地域の事業所との交流再開が期待される。
	食事について「美味しい」という声が複数聞かれた。
	食事のメニューが豊富な印象を受けた。前回訪問時と同様であるが、選択メニューが週4回あった。
	前回の検討事項について前向きに検討いただき、具体的な改善を図っていた。
	外出や携帯電話の利用（Wi-Fiの提供も含め）も積極的に認める等、患者に対する信頼や配慮の観点が見られた。
	職員の就労環境の改善などにも取り組み、職員を大切にしようという意識が窺われた。